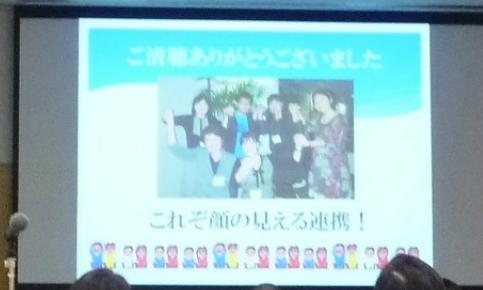


医療福祉連携士への期待



国際医療福祉大学大学院
武藤正樹

2012年診療報酬への期待
在宅医療連携拠点への期待

2012年診療報酬改定の基本方針

- 次回改定の基本方針～4つの視点～
 - ①充実が求められる領域を適切に評価していく視点
 - ②患者からみて分かりやすく納得でき、安心・安全で、生活の質に配慮した医療
 - ③医療と介護の機能強化・連携に関するもの
 - ④効率化余地がある領域を適正化する視点
 - その他
 - 東日本大震災を踏まえた災害対応に関するもの

③医療と介護の機能強化・連携に関するもの

- 在宅医療を担う医療機関の役割分担や連携の評価
- 早期の在宅療養への移行、地域生活への復帰に向けた取組の評価
- 在宅での療養の質の向上に向けた在宅歯科、在宅薬剤管理の充実
- 退院直後等の医療ニーズの高い者への重点化等の訪問看護の充実
- 維持期のリハビリテーション等における医療・介護の円滑な連携
- 介護施設における医療提供の評価の在り方

早期の在宅療養への早期移行、 地域生活への復帰について

- 退院支援のさらなる強化
 - 2008年改定
 - 退院調整加算
 - 介護支援連携指導料
 - 退院時共同指導料
 - 2010年改定
 - 退院調整加算の強化
 - 看護師、社会福祉士による手厚い体制で行う退院調整加算

2012年改定への期待

- 退院調整加算から「退院調整体制加算」へ
 - 退院調整加算をさらに推し進めて、より組織的・体系的な退院調整に係わる部門と多職種チームを評価してはどうだろうか？
 - 退院支援部門の人員要件
 - 医療福祉連携士を人員要件した「退院調整体制加算」を設定してはどうだろうか？

在宅医療連携拠点事業

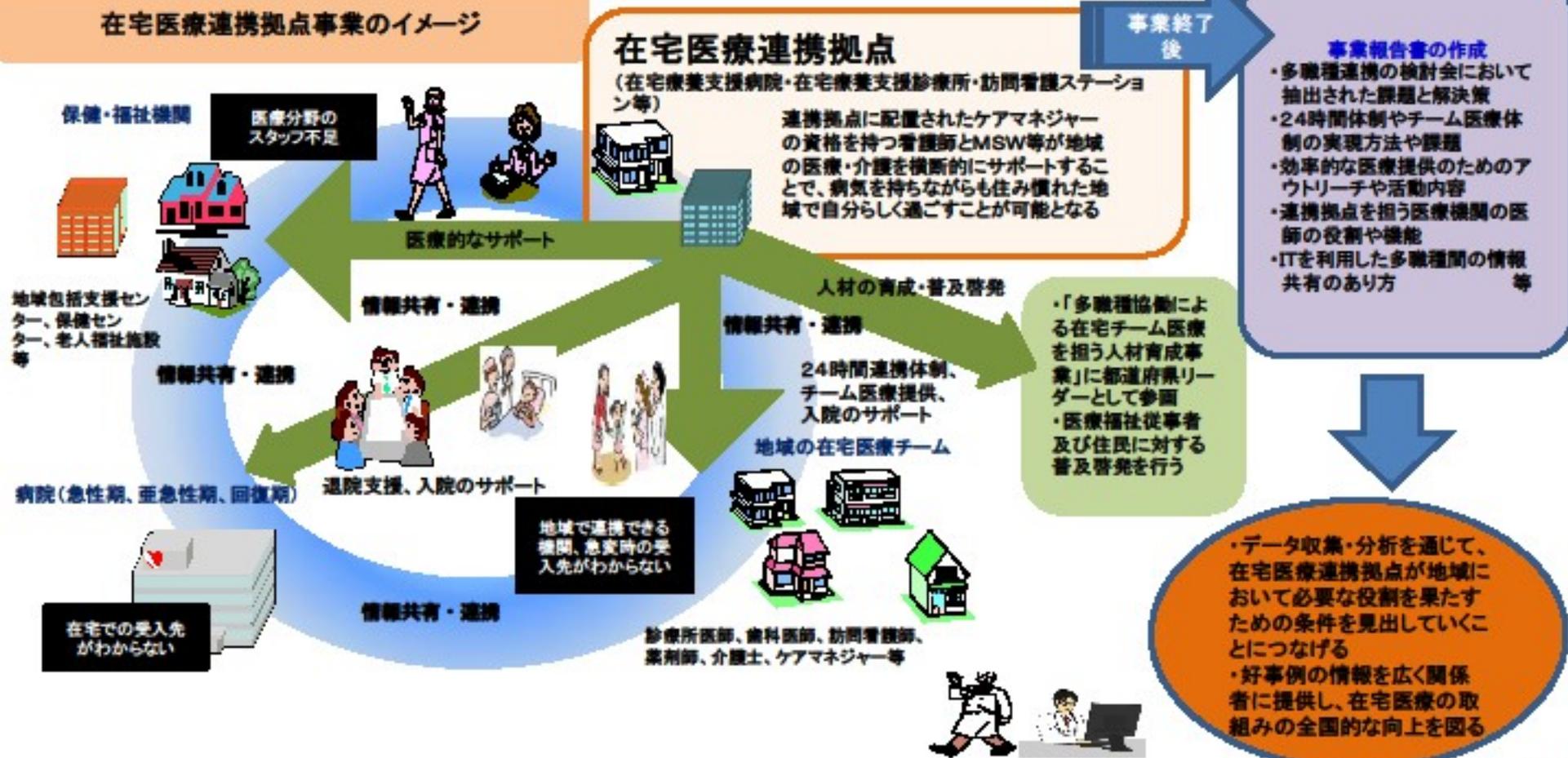
在宅医療連携拠点事業

要望額 31億円

■本事業の目的

- 高齢者の増加、価値観の多様化に伴い、病気をもちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごす「生活の質」を重視する医療が求められている。
- このため、在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す。

在宅医療連携拠点事業のイメージ



□ 在宅医療連携拠点事業の展開

■ 事業の実施地域 47都道府県 × 2か所 = 94か所

- データ収集・分析を通じて、在宅医療連携拠点が地域において必要な役割を果たすための条件を見出していくことにつなげる。
- 好事例の情報を広く関係者に提供し、在宅医療の取組みの全国的な向上を図る。
- この事業から得られた各種データや好事例の情報については、下記のような地域特性、連携拠点となる主体、対象疾患等による各種モデルごとに整理・分析を行い活用する。

■ 地域特性による実施例

【都市型モデル】

都市部での医療と介護の連携のあり方についての対応策を検討する

【過疎地域モデル】

山間地域等での医療と介護の連携のあり方についての対応策を検討する

■ 連携拠点となる主体による実施例

【在宅療養支援病院モデル】

診療所と同様に在宅医療の担い手となっている在宅療養支援病院が連携拠点となる(在宅療養支援のための病床運営のあり方を含め検討)

【在宅療養支援診療所モデル】

訪問診療を行い、自宅での療養をサポートする在宅療養支援診療所が連携拠点となる(有床診においては、在宅療養支援のための病床運営のあり方を含め検討)

【訪問看護ステーションモデル】

医療と介護の要として機能している訪問看護ステーションが連携拠点となる

【市町村主導モデル】

患者の日常圏域における行政をつかさどる市町村が地域の医療福祉従事者を結びつける役割を担う

【医師会主導モデル】

地域において医療機関等を束ねる医師会が主体となって、地域の医療福祉従事者を結びつける役割を担う

【保健所主導モデル】

保健所が行政と地域の医療福祉従事者を結びつける役割を担いながら、在宅医療連携拠点となる

■ 対象疾患等による実施例

【がん患者モデル】

痛みや苦痛症状を緩和しながら自分らしい生活を送ることができるよう必要なサポート体制についての検討を行う

【小児患者モデル】

NICU退院者等のサポート体制など、子どもが在宅で生活する上での必要な対応策を検討する

【精神疾患モデル】

統合失調症患者やうつ病患者も医療的・福祉的支援を受けながら地域で療養できる体制についての検討を行う

【難病・疾病患者モデル】

難病患者が可能な限り住み慣れた場所で生活できるよう必要なサポート体制についての検討を行う

【障害患者モデル】

障害者が可能な限り住み慣れた場所で生活できるよう必要なサポート体制についての検討を行う

【認知症患者モデル】

認知症患者が可能な限り住み慣れた場所で生活できるよう必要なサポート体制についての検討を行う

医療連携福祉士を在宅医療連携拠点に配置したモデル事業を行ってはどうだろうか？

次期医療法改正で在宅医療連携拠点事業を法制化してはどうだろうか？